

【乳量を伸ばす機会は1日、下げる機会は364日】

搾乳牛の乳量を伸ばす機会は1年間に1回、即ち分娩時のみである。その他364日は乳量を低下させる機会が存在する。如何にして1年に1回しかないこの日のために、事前に乾乳期から準備をして乳量を伸ばすかである。

準備の前提となるのが、分娩予定日である。皆さんも経験しているであろうが、妊娠日が最終授精日の1周期前であることがある。実際の分娩日と記録からの分娩予定日が大きくずれることがある。すると分娩後の乳房の張りは悪く、分娩後の乳量は乾乳期の準備が十分できた牛と比較すると伸びない。分娩前即ち乾乳後期での栄養管理が不十分(期間不足)となり、結果分娩前の乳房の張りが悪く乳量が伸びない牛となってしまう。分娩というたった1日のために、搾乳を止め乾乳作業を行い、次の乳期のために乳腺組織を休ませ、その後の栄養管理に注意を払い、分娩に向けて準備を怠りなくする。これにより乳腺組織の充分なる復活を期待するのである。分娩予定日に向けての準備が乳量上げるだけでなく、産後の病気予防にとっても分娩に向けての準備は重要である。

このように分娩予定日が正確でなければ、乳量をあげる事は難しくなる。本交で授精をして、適当な時期に妊娠鑑定をするのでは、この根本が崩れてしまう。繁殖管理は妊娠牛を増やすこと、その情報から乳量をあげるための1年に1回のチャンスを予定しなければいけない。ただ妊娠をしていけばよいものではない。

一方乳量を下げる要因は、毎日364日存在する。飼料の給与時間が遅れた、サイレージの品質が悪くなった、カビが生えているなど飼料に関するものから、搾乳時間が遅れた、停電した、機械が壊れたなど色々な事柄が農場では起こりえる。これらの事柄の発生割合を如何にして下げるかが、乳量を下げないポイントでもある。「ひやり・はっと」体験をもっと貴重な経験として考えなければいけない。小さな気遣いの積み重ねが、大きな乳量の相違を造る基である。

乾乳期の栄養管理が悪く乳房浮腫がひどい初産牛



乾乳期の準備が良く、浮腫が見られない乳房

